

VỀ CHƯƠNG TRÌNH DẠY TIẾNG NHẬT TRÊN ĐÀI TIẾNG NÓI VIỆT NAM

PHẠM HƯNG LONG*

Chương trình dạy tiếng Nhật trên Đài tiếng nói Việt Nam do tác giả Phạm Hưng Long biên soạn và chủ trì bắt đầu từ năm 1998, cho đến nay đã phát được 4 chương trình từ sơ cấp đến trung cấp.

1. Chương trình 1: “Vui học tiếng Nhật”, trình độ sơ cấp, 25 bài, phát từ tháng 3-1998, mỗi tuần phát 1 bài, mỗi bài 15 phút trên sóng FM 100; phát lần 1 vào 13h thứ Hai và phát lại 3 lần là 23h thứ Hai, 13h thứ Sáu, 23h thứ Sáu.

* Biên soạn và dẫn chương trình : Tác giả

* Đọc tiếng Nhật: ISHI TOMOKO, giảng viên tình nguyện ĐHHN

2. Chương trình 2: “Tiếng Nhật cho mọi người”, trình độ sơ cấp, 50 bài, phát từ tháng 5-2004 trên sóng AM 549. Giờ phát và thời lượng như chương trình 1.

* Biên soạn: Tác giả

* Dẫn chương trình: Nguyễn Hải Yến, giảng viên Khoa tiếng Nhật

* Đọc tiếng Nhật: - KIMURA NORIKO, giảng viên tình nguyện ĐHHN

- NISHIZAWA TOMOHIDE, giáo viên thỉnh giảng ĐHHN

Chương trình được đánh giá tốt, Đại sứ Nhật Bản tại Việt Nam viết lời tựa cho giáo trình do Nhà xuất bản Thanh Niên xuất bản.

3. Chương trình 3: “Tiếng Nhật thực hành”, trình độ trung cấp, 30 bài, phát từ tháng 9-2006 trên sóng AM 549. Giờ phát và thời lượng như chương trình 1.

* Biên soạn: Tác giả

* Dẫn chương trình : Nguyễn Hải Yến, giảng viên khoa Nhật Bản

* Đọc tiếng Nhật: - MURAKAMI GOICHI, giáo viên Trung tâm tiếng Nhật Núi Trúc Hà Nội

- KANEKO MIZUHO, lưu học sinh tại ĐHHN

Chương trình được xuất bản thành sách và CD tại Nhà xuất bản Giáo dục Hà Nội.

4. Chương trình 4: “Cùng nhau học tiếng Nhật”, trình độ sơ cấp, phối hợp với Đài phát thanh Nhật Bản NHK, phát từ tháng 8-2008, dự kiến có 126 bài, đến 2011 mới kết thúc.

* Biên soạn phần luyện tập: tác giả

* Dẫn chương trình: Nguyễn Lan Hương, sinh viên khoa Nhật Bản

* Đọc tiếng Nhật: - MURAKAMI GOICHI, giáo viên Trung tâm tiếng Nhật Núi Trúc

- FUKUHARA MASAE, giáo viên Trung tâm tiếng Nhật Núi Trúc

* Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

ラジオの日本語講座

世界経済が混沌としているなか、世界各国を飛び交う情報は激増しております。そして、ベトナムにおける日本語教育熱はますます高まりを見せており、日本語を学習したいと切望する人たちは、年々増える傾向にあります。

近年では日系企業がベトナムに進出するケースが増えています。ASEAN 各国の中で日系企業の進出数が対前年比で 2 桁増を示しているのは、ベトナムだけです。ベトナムの日本商工会に登録している企業数の年度末推移を調べると、2008 年 2 月現在でベトナム北部には 291 社、ベトナム南部へは 372 社となり、合計では 663 社が所属しています。日本商工会に所属していない日系企業も多く、その企業数は明確に把握されていない事情をかんがみますと、進出企業数は 1000 社弱近くなると推測しております。

進出する日系企業が増えるという現状は、とりもなおさず、日本語を習得している就労者が求められている窮状を意味しています。

日本国際交流基金が発行する『海外の日本語教育の現状』が把握するだけでも、ベトナムにおいて日本語を習得している人口は、2003 年の 18,029 人から 66% 上昇し、2006 年には 29,982 人となり、およそ 3 万人が日本語を習得しています。

したがって、先の数字に、統計では把握できない自習者（例えば、タクシー運転手、ホテルに勤務する方、金銭的余裕がなく、独学での日本語習得を余儀なくされている方等）を含めると、かなりの人数が日本語を学習している状況が予想できます。

また、政府間においてはグローバル化が一段と進んでおります。たとえば、国家協調金融政策への体制づくりが必要とされ、法務部門は WTO の加盟など、1 国だけの独断的な意思決定では不十分であり、国際社会からの信頼を損ねる事態にもなりかねません。国際間の架け橋となりうる人の育成が、国家の繁栄を担う時代へ突入しております。

これをベトナムと日本の関係に置き換えますと、単に日本語を知っている水準から、ベトナムと日本の文化の違いを知り、より両国の橋渡しができる能力を持つ人の育成が急務となっています。

前述のような社会的背景からベトナムラジオ局は日本語を熱心に勉強したい人々に何らかのお役に立ちたく、学校での補助教材としてだけではなく、自習者を含めて利用できる日本語講座を 10 年前（1999 年）から放送することに

しました。「日本語を学習したいと切望する人たちに、少しでも勉強しやすい環境を提供する」という方針です。

10年にわたり放送された四つの番組。

1. 第1番組：「たのしい日本語を」初級25課からなっている。

放送：1999年3月より、FM周波数100MHz、

編集：Pham Hung Long ハノイ大学教師

アナウンサー：Pham Hung Long

Ishii Tomoko、ハノイ大学青年協力隊の教師

2. 第2番組：「みんなのための日本語」初級の50課からなっている。

放送期間： - 2004年5月24日～2005年5月

- 2005年6月～2006年6月（再放送）

放送時間：1課は15分で、週4回放送される

月曜日 13h, 23h（再放送）

金曜日 13h（再放送）、23h（再放送）

周波数： - ハノイ、北部 : AM 549 KHz

- 中部 : AM 702 KHz

- ホーチミン市、南部 : AM 558 KHz

編集：Pham Hung Long ハノイ大学教師

アナウンサー：Nguyen Hai Yen ハノイ大学教師

Kimura Noriko 青年協力隊の教師

Nishizawa Tomohide 非常勤の教師

Ofune Chisato 国際交流基金教師

出版：SHIMURA GENICHIRO 様、NAGAOKA MINA 様の寄付金に

より1巻（1課～25課）出版された。

序文：HATTORI NORIO 日本大使に書かれた。

ベトナムの日本語学習者のみなさん、こんにちは。

この度、日本語教育関係者の皆様のご尽力によりラジオ日本語講座「みんなのための日本語1」の教科書が出版され、同講座が再放送されることになったことを、大変嬉しく思います。

日本とベトナムの関係は近年急速に深化しており、貿易投資のみならず、留学生や文化面の交流も急速に増大しています。このことを反映して、日本語学習者も増加しています。

ベトナム政府も、日本語学習の強化に力を入れており、2年前からハノイとホーチミンの中学校の授業が開始され、今年からは正式科目としてフエ、ダナンにも拡大する予定です。

日本政府としても、この動きを歓迎し、引き続き強力に支援していく方針です。

「みんなのための日本語1」は、日本人が日常使っている自然な日本語を学ぶことができるよう作成されており、必ずやみなさんのお役に立つことと思います。

ラジオ日本語講座をお聞きのみなさんがこの教科書を使って日本語を話せるようになり、日本とベトナムの関係が一層親しくなることを心から願っております。

在ベトナム日本大使館

特命全権大使 服部 則夫



3. 第3番組 : 「実践日本語」 中級の30課からなっている。

放送期間 : 2006年9月25日～2007年5月

放送時間、周波数 : 第2番組と同様

編集 : Pham Hung Long ハノイ大学教師

アナウンサー : Nguyen Hai Yen ハノイ大学教師

Murakami Goichi 越日文化交流協会日本語

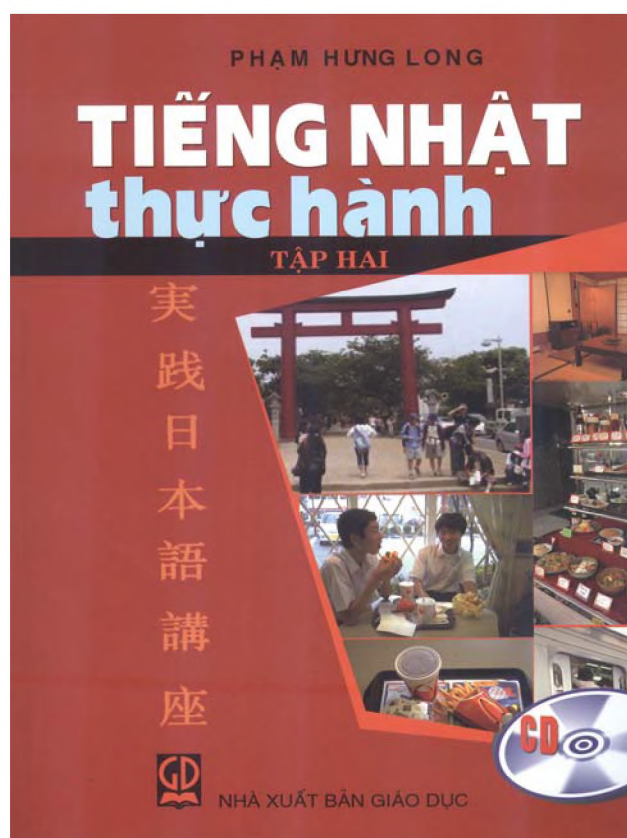
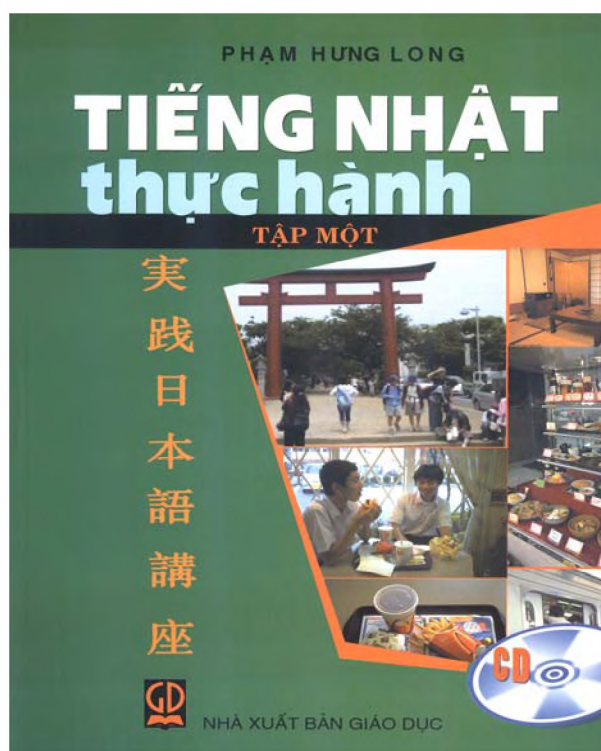
センターの教師

Kaneko Mizuho 留学生

出版 : HANAMURA SATOSHI 様の寄付金に出版された。

目次

か 課	だいめい 題名	か 課	だいめい 題名
1 課	しょたいめん 初対面のあいさつ	16 課	むかしばなし 昔話 (1) : 桃太郎
2 課	かぞく 家族	17 課	でんわ 電話
3 課	じゅうたく 住宅	18 課	サラリーマン
4 課	しゅみ しゅみ	19 課	ざんぎょう 残業
5 課	しゅうまつ やす 週末の休み	20 課	ボーナス
6 課	りょこう 旅行	21 課	きょういくせいど 教育制度
7 課	ホテル	22 課	こうれいか しょうしか 高齢化、少子化
8 課	かいもの 買物	23 課	しゅうきょう 宗教
9 課	ゆうびんきょく 郵便局	24 課	こうつう 交通
10 課	レストラン	25 課	かんきょうもんだい 環境問題
11 課	かぞくほうもん (1) 家族訪問 (1)	26 課	さいがい 災害
12 課	かぞくほうもん (2) 家族訪問 (2)	27 課	しゃかいほけん 社会保険
13 課	にほん けっこんしき 日本の結婚式	28 課	へいせいじだい 平成時代
14 課	おく もの 贈り物	29 課	にほん きょうりよくかんけい ベトナムと日本の協力関係
15 課	しんねん 新年	30 課	むかしばなし 昔話 (2) : つるの恩返し
			さくいん 索引



「実践日本語」番組は、単に日本語を学習させるだけではありません。ベトナムと日本の共通点、相違点、独自性を紹介し、学習者に身近なテーマを取り上げることにより、学習者に日本への親近感をもってもらいやすいように配慮してあります。

本書を紐解きますと、「初対面のあいさつ（1課）」にはじまり、まずは「家族（2課）」「住宅（3課）」で、会話のきっかけを例示しています。ベトナム人と日本人の共通点に、見慣れない人に対して不安を感じたり恥ずかしがったりする性格があげられます。しかし、いったん打ち解けてしまえば、心のそこからお互いを分かり合おうとする熱意があります。このような「会話のきっかけ」を蓄積しておくことは、留学生が最初に日本の家族に招かれた際や、ビジネスでの商談を進める上で有用であると考えます。

これらの会話の延長に、「家族訪問（11課、12課）」「日本の結婚式（13課）」があります。実際に日本の家庭に招待されたときの立ち振る舞いや、冠婚葬祭の代表例である日本の結婚式を通じて、ベトナムと日本の文化的な相違点を浮き彫りにしています。

たとえば、「日本の結婚式（13課）」では、日本の晩婚化を取り上げています。ベトナム社会の婚姻時期が日本と同じように晩婚化しはじめていることが、先日ベトナムの新聞に取り上げられていました。晩婚化の延長線上に位置して、日本では少子化の傾向が問題になっております。このような数々の社会問題も、本書では取り上げています。（「高齢化、少子化（22課）」「環境問題（25課）」）。

「実践日本語 1、2」のそれぞれの巻末には日本の昔話として、「桃太郎（16課）」「つるの恩返し（30課）」。「桃太郎は勧善懲悪の代表的な物語であり、つるの恩返しは義理人情を描いたお話です。どちらも、日本人だけでなく、人を尊敬し謙譲の心をもつ、ベトナム人の心根をも揺さぶる話であります。

本書の内容は、すでにラジオで30週間をかけて放送されました。ラジオを聞かれた方々からは、一様により評判を受けております。多数の方から評価されたため、「はやく次の番組を作成してほしい」という要望も多数頂戴しました。そして、次の番組では、より個別具体的なテーマを扱ってほしいという希望もありました。たとえば、ビジネスや観光などに特化した内容です。

日本語が必要とされる状況は、書面だけとは限りません。口頭でのコミュニケーションも要求されます。そのため、日本語を文字として把握するだけでなく、音声として聞き取り、発音できる能力も身につけなければなりません。

「実践日本語」では、学習者の便宜を図るために、音声教材としてCDを添付しました。人は、聴いたことのない発音を口にはできないと言います。本書に接し、実際にネイティブの発音を耳にすることにより正確かつ日本人に聞き取りやすい発音を習得できるようになりました。

4. 第4番組：

2008年8月11日から放送されている「やさしい日本語」という番組。NHKとの協力で、テキスト、ナレーターはNHKのです。ベトナム側は練習問題を担当します。126週間放送する予定です。

練習問題作成：Pham Hung Long ハノイ大学教師

アナウンサー：Nguyen Lan Huong ハノイ大学

Murakami Goichi 越日文化交流協会日本語センターの教師

Fukuhara Masae 越日文化交流協会日本語センターの教師



こうして、ラジオの日本語講座を通じて、ひとりでも多くの学習者が日本語を習得し、さらには日本の文化や日本人の考え方について正しく理解し活用されることにより、ベトナムが物心両面でますます繁栄されることを願ってやみません。

参考情報源：

1) 国際交流基金

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/index.html>

2) ベトナム進出日系中小企業の経営課題とその対応 ～税務・会計・投資～

「財団法人 海外貿易開発協会」

www.jodc.or.jp/local/documents/2007report_vietnam.pdf